

1. 17 防災未来賞『ぼうさい甲子園』ぼうさい大賞受賞



ぼうさい大賞に輝いた石川県能登町立小木中の生徒たちと一掃に活動の成果を振り返る大句わか子校長(中央) 神戸市中央区で8日前11時51分、平川義之撮影

『ぼうさい甲子園』で大賞を受賞しました。

本校が防災教育を始めてから5年連続で応募してきました。

- 2012年…津波ぼうさい賞
- 2013年…津波ぼうさい賞
- 2014年…奨励賞
- 2015年…優秀賞
- 2016年…大賞

『ぼうさい甲子園』は、22年前の阪神淡路大震災を忘れないこと、未来に生きる(生きる)防災を考えていくことを願い12年前に始まったものです。

兵庫県井戸敏三知事さんから表彰状と目録、毎日新聞社丸山昌宏社長さんから賞状と盾をいただきました。

大賞と優秀賞は活動発表もありましたので、昨年に引き続き8分間のプレゼンテーションをしてきました。

後期生徒会2年生の坂口さんと浦下さんが、練習よりリハーサル、さらに本番とだんだん上手になりました。

5年10カ月、関わった教職員、地域の方々、PTA、教育委員会、危機管理室、社会福祉協議会、大学の片田先生、青木先生、林先生、田中先生と北陸学院大学生よりそいのみなさん、高橋さん、などなどたくさんの皆様のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。小木中生の頑張りが結実しました。

避難経路地域に根

神戸市で8日、今年度のぼうさい甲子園(毎日新聞など主催)の表彰式・発表会があった。5年連続の受賞で、初のぼうさい大賞に輝いた石川県能登町立小木中学校の大句わか子校長(60)は、東日本大震災後に始まった防災の取り組みを見守ってきた。3月の定年退職を前に初めて表彰式に出席。「地域全体で受けた賞だと感じている。過去の災害の教訓を忘れず、賞を励みに取り組みを続けてもらいたい」と今後を期待を寄せた。(一面参照)【山本夢】

ぼうさい甲子園「大賞」

石川・小木中大句校長「町から犠牲出さぬ」

小木中は、リアス式海岸の丸十九湾に面した高台にある。2011年の東日本大震災の際、リアス式の三陸海岸で大津波の被害が出たことで危機感が高まり、防災教育に力を入れてきた。大句校長は14年に着任し、防災教育のバトンを受け継いだ。小木中のある能登半島は、07年の地震でも被害が出ており、防災意識は高い。しかし、11年

小木中は地域防災の中心的存在になっている。生徒たちの活躍は、高齢化が進む地域で中学生が強力なマンパワーになることを気づかせた。町内で年に1回行われる防災訓練は、各地区の中学生が運営に加わるようになった。今年度は、避難経路に太陽光発電ができるライトを取りつけ、避難場所などを示す看板を設置する活動をした。大句校長は「防災活動が続いていくか不安もあったが、確実に地域に活動が広がってきた。安心して後任に任せられる」と話した。



この記事は12月30日に出たものです。表彰式に行ったとき、いただきました。(大賞の受賞は12月早々に連絡が入っていたのですが、正式発表以降に公表してほしいということもあり、また、この新聞情報が入らなかったこともあり、いただいて感謝でした。)

会場では、5月に本校に視察に来られた、大阪府摂津市の教育委員会次長さんと先生方3名がお祝いに来ていただきました。また、大阪の鶴見橋中学校から視察に来られた先生と一緒に防災教育にかかわってこられた先生と校長先生もお祝いいただきました。

ポスターセッションに出した、ポスターが貼り出されていたのですが、会場に来られていた愛知県の引率の美術の先生が、小木中の物がレイアウト、生徒の言葉、手書き分量のよさで、読みやすく一番好きですとってくださいました。

折しもこの日は能登町成人式。小木中の防災活動を始めた学年の皆さんが、成人式を迎えた日でした。群馬大学の片田先生から、祝電が届いており、披露されたそうです。

小木中生の頑張りが周りの皆さんの温かい声かけを生んでいます。そして、その温かさに感謝の気持ちでいっぱいです。